

# VW Type II History & Market Information

イギリス軍統治下のVWが、箱形商用車として開発したタイプII。1967年のモデルチェンジを境に、通称も、そして魅力も異なるタイプIIの歴史&マーケットを紹介しよう。

Photo:CG library

## History

### 1950～1967

1950年、まずはパネルバンがデビュー。フロントのスプリット(2枚分割式)ウィンドーとV字型のプレスラインが特徴となる。通称は“スプリッティ”または“アーリーバス”。デビュー当時はタイプIの1131cc/25psエンジンを積んだが、1967年の生産終了時にはタイプIIIの1493cc/44psに成長した。



1949年のプロトタイプ。荷室、リアウィンドーのない簡素なデリバリーバン。



アーリーバスのデラックスモデル。貴重な23ウィンドーを装着している。

### 1968～1979

モデルチェンジ後のフロントパネルはベイ(1枚板)ウィンドーの下に四角いグリルが特徴。通称は“ベイウィンドー”または“レイトバス”。1584cc/47psのモデルは“アーリーレイト”と呼ばれ、72年以降のタイプIVと同じ1679cc/66psエンジンを積んだモデルは“レイトレイト”と区別される。



ウインカーランプがヘッドライトの下にある、レイトバスでも初期のモデル。



グリルの横にウインカーランプが移動。79年の生産終了までこの顔となった。

## Market Information

1979年に生産が終了してから30年近く経つため、年々程度のよい車両は減少している。加えて近年世界的なタイプIIブームに火がつき、価格は現在も上昇傾向。10年前に較べると2倍近くの値に跳ね上がっているようだ。購入者はタイプII特有の雰囲気を楽しむならアーリーバスを選び、実用性を求めるにはレイトバスを選ぶといったように目的別に選択は分かれる。

圧倒的な人気を誇るのはフロントのVラインとスプリットウィンドーが特徴のアーリーバス。流通量もこれに比例する。パーソナルユースではマイクロバスやコンビの流通量が多く、続いてキャンパーとなる。キャンパーモデルはウェストファリア社製のモデルに人気集中。

タイプIIの中で最も人気が高いのはアーリーバスのウェストファリア・キャンパー。中でも23ウィンドーは300万円を上回る価格が付く。

ボディカラーはVW純正カラーのパールホワイトの指定が多い。人気のオプションはサファリウィンドーやサイドステップ。トランスミッションはほぼ全てのモデルがMTとなっているが、72年以降に生産された“レイトレイト”のみATの設定がある。しかしこのモデルはタマ数が少ないことに加え、現在ではパーツの流通量が薄く、また供給もないため維持するのが難しい。

豊富な在庫パーツを持ち、確実なメンテナンスをお願いできるショップを見つけることが、タイプIIオーナーになるための第1歩といえる。



タイプIIの相場の目安

(単位=万円)

アーリー ('50-'67)	250～
アーリーレイト ('68-'71)	200～
レイトレイト ('72-'79)	(流通量が少なく不明)
キャンパー仕様 アーリー	250～
キャンパー仕様 レイト	200～

※年式・モデル・オプションにより1台ずつ異なるので注意。